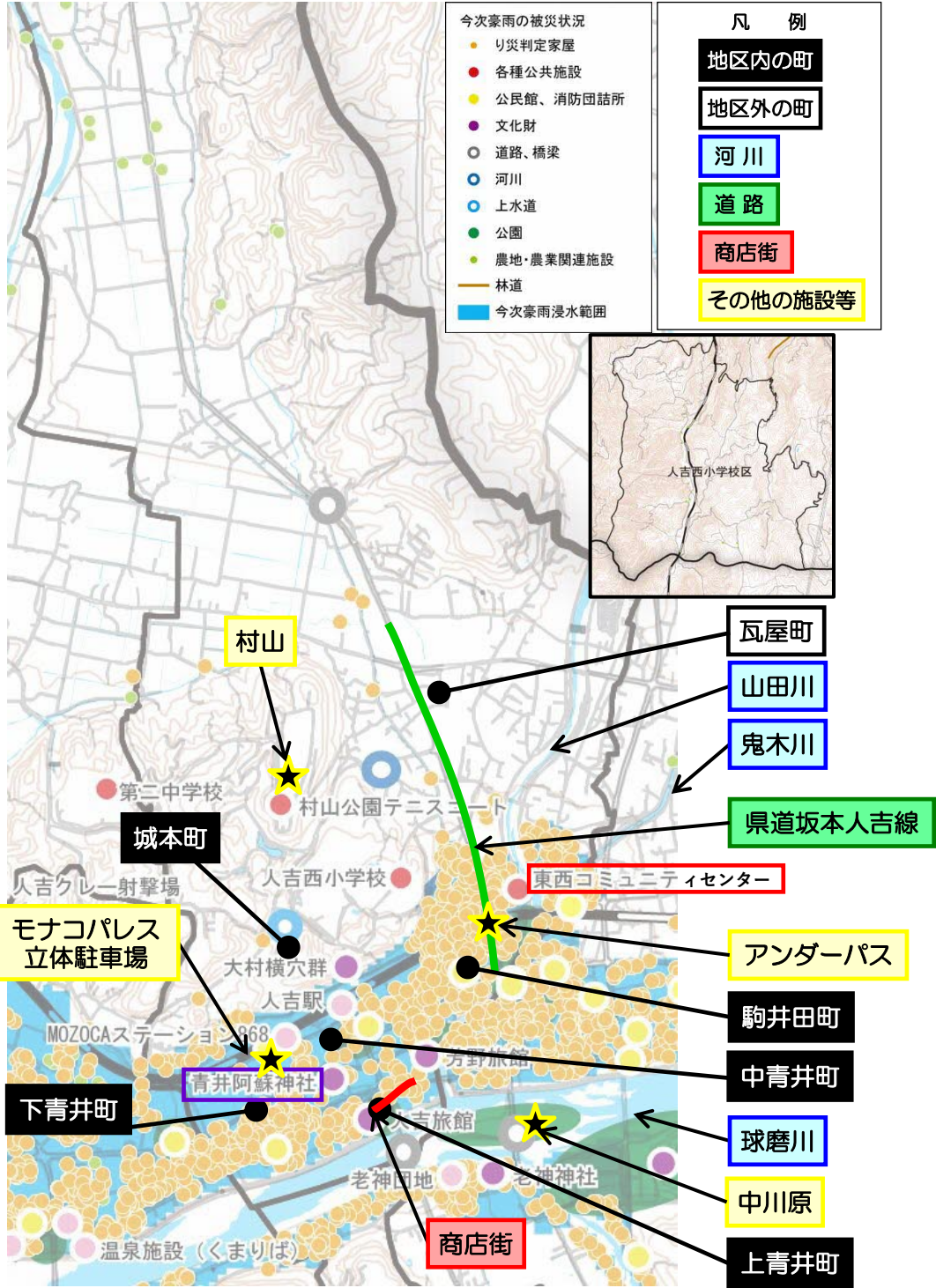


※第2回校區別座談会における参加者による意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

令和2年7月豪雨による被災状況図



※出典：
・り災判定家屋：り災判定（令和3年2月上旬時点）
・各施設：庁内資料（被害報告）
・今次豪雨浸水範囲：八代河川国道事務所提供資料（球磨川本川のみ）

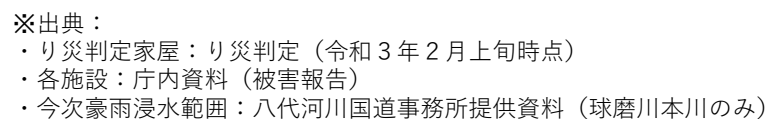
【青井地区の重点地区（案）への意見】

- ・5町（城本町、駒井田町、上青井町、中青井町、下青井町）の範囲を基本に、地区別懇談会をスタートすることに問題はない。
- ・参加者は、若者や女性など各世代から広く意見を聞く方向がよい。
- ・町内会長からの推薦（地域に関わりがある人、まちづくりに関心がある人、多様な世代等）について検討する。

項 目		西校区の主な課題や要望について
避難対策	避難場所	・避難場所になっている青井阿蘇神社、東西コミュニティセンターも浸かった。 ・東西コミュニティセンター、取付道路を嵩上げし、安全な避難場所にする。 ・民間建物を避難ビルとしての活用を。 ・西校区に3～4箇所、高い建物の避難所が必要。 ・高齢者は高台へ避難するよりも立体駐車場へ。 ・モナコパレス立体駐車場にかなりの人が避難していた【中青井町（東）】 先日、モナコパレス所有者の銀馬車へ行き、万が一の時は避難させてほしい旨お願いし、了解してもらった。行政からもお願いしておいてほしい。 ・2020年の台風10号の時は、立体駐車場へ避難したが、店利用者の車で満車状態のため、1階に停めて上に上がった。 ・病院、ホテルはコロナウイルス感染の問題があり、避難所からはずした方が良い。 ・他の民間施設を避難所とするように、地区でルール化する。
	要支援者対策	・高齢者は氾濫経験があり避難した。【城本町】 ・5人前後が高齢の一人住まい。【中青井町】 民生委員が避難を呼びかけ、会長宅に3人避難したが、水の出が早く他の人は間に合わなかった。 ・高齢者等に配慮した避難計画が必要。 ・余裕を持ち、ゆったりと避難できるように。 ・高齢者をどう考えるか、民間病院を活用するのも有効。 ・避難弱者を誰が誘導するかなど、町内で話し合う。
	避難誘導	・町内ごとに避難ルートがバラバラ。 ・若い人は経験がないので避難を知らない。 ・浸かるはすがないという固定観念があった。（60代より下の若い年代）【城本町】 ・一度経験しているので、皆で避難した。 ・自動車を置いて避難した人が多い。 ・自動車を村山の高い所へ先に避難させる人もいる。 ・建物（民間施設、公共施設）への避難誘導をシッカリする。公共施設であれば堂々と避難可能。
	道路	・駒井田町～瓦屋町の県道坂本人吉線にアンダーパス区間があるが、水に浸かり利用できなかった。 ・アンダーパス排水ポンプの電源が切れた。 ・代替道路の整備を優先する（上を通しては？） ・南北方向の道路が少ない。 ・球磨川から避難するタテ方向の道路整備が必要。 ・避難しやすい道路を整備する。 ・自動車で高い所への逃げ道を考える。
生業再建・住まい再建	生業再建	・商売をやめる人が増えた。町に釣り具専門店がゼロ。他所へ勤めに出ている。 ・一番の商店街が3m浸水。店舗が減った。【上青井町】 ・鉄骨造ピロティ形式だったので、床上浸水していても半壊扱い。 ・生業復活のモとは、人口を増やす・戻すこと。 ・再建しても無理かもしれない。難しい課題であり、年金生活世代以下の若い世代でも大変だろう。 ・再建築（住まい、商売）は要検討。 ・観光客が減少し、パート女性（100人/日）が働けない。 ・SLが来ないので、観光客が来ない。売上なし。 ・ホテル（働く場）を再開してほしい。経済的効果がある。
	復興まちづくり	・人吉は住みやすい、福祉が充実。 ・東洋経済『すみよさランキング2019、2020』の九州・沖縄ブロックは、2年連続で人吉市が2位。 ・他所へ行くよりも、人吉に住んでいる方が良いはず。 ・長期的に住みよいまちにする。（西校区～人吉のまちづくりの願い）
治水	治水 環境共生	・山田川から市内へ氾濫した。【城本町】 ・球磨川は大小の石がろ過し、水が清い。 ・山田川、鬼木川は河川工事で石の層が薄い。 ・山田川は染色廃水を流し、清流が消えた。 ・球磨川、山田川を、昔のような清流に。 ・中川原の人吉層を削るのではなく、自然を破壊せず、上流で水をコントロールするのが一番良い。

鶴田町等（井ノ口町、合ノ原町、瓦屋町、鶴田町）

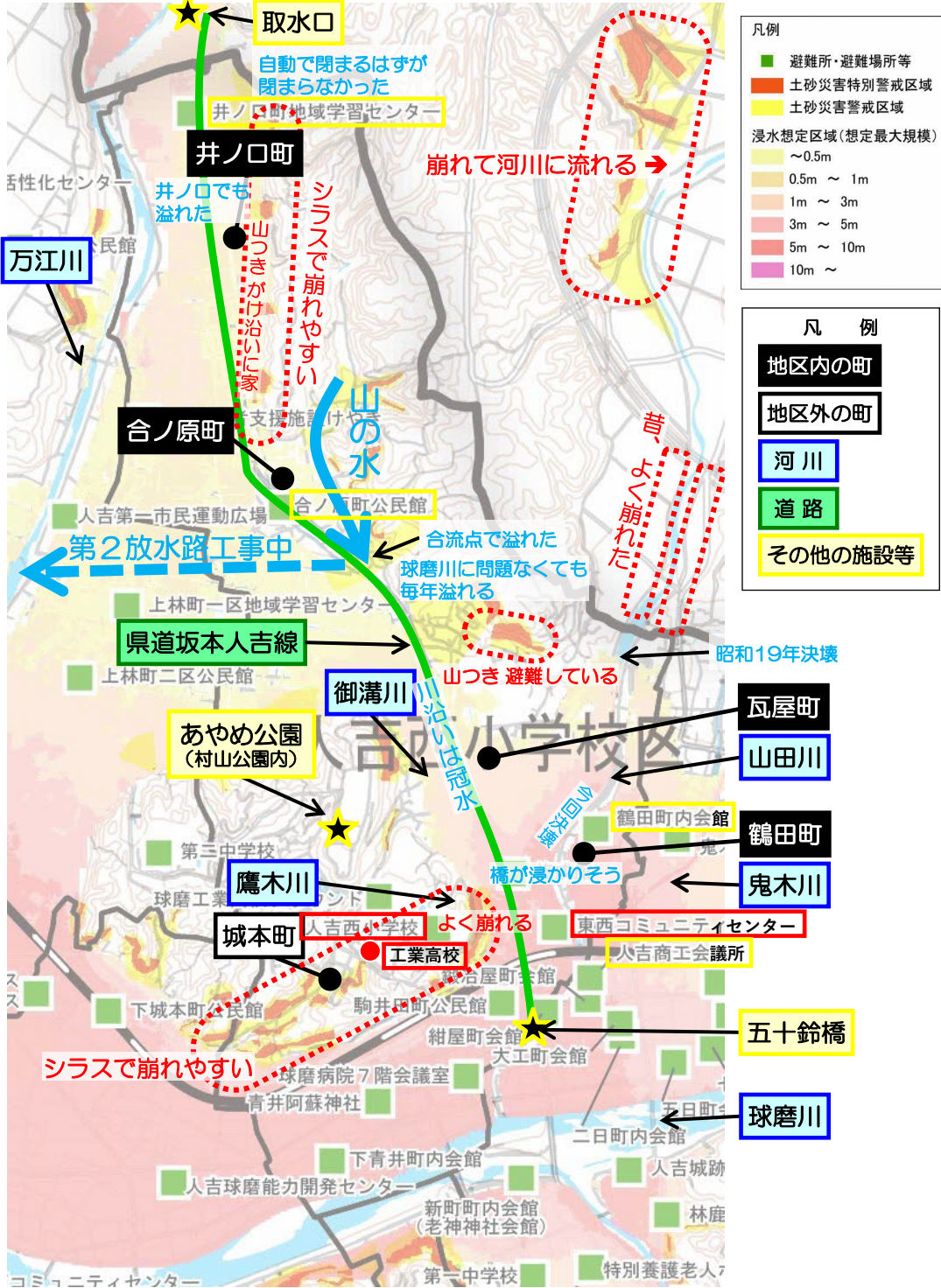
■令和2年7月豪雨による被災状況図



項 目		西校区の主な課題や要望について
避難対策	避難場所	・鶴田町内会館は50mほど手前まで水が来たが、大丈夫だった【鶴田町】 ・西小学校、東西コミュニティセンター、工業高校が指定避難場所になっているが遠いので、地域学習センターへ自主避難した。東西コミュニティセンター1階の浸水は初めて。【井ノ口町】 ・今は、仮設住宅から市営住宅に移っている人が多い。 ・商工会議所が浸かってダメだった。【鶴田町】 ・大雨の場合、前もって開放しておいたので、合ノ原町公民館へ自主避難した。【合ノ原町】 ・自主避難の場合、備蓄が何もないので自分達で準備する。【井ノ口町、合ノ原町、瓦屋町】
	要支援者対策	・高齢者が歩いて避難するのは大変だ。 ・各戸で土のうを積んで自己防衛しているが、高齢者には大変だ。【瓦屋町、合ノ原町】
	避難誘導	・住んでいる所によっては、水が出ていることを知らなかった家もある。【合ノ原町】 ・20～30分で胸まで水が来た。夜中に防災無線は聞こえない。早めの避難が大事。当日逃げられなかった人もいる。いかにして皆に周知するか。【瓦屋町】 ・事前周知方法、連絡方法などを決めて、ネットワーク会議で町内に防災の専門家を置く必要がある。【鶴田町】 ・どこを通れば良いのかはわかっている。 ・今回は逃げ口から水が来て行き止まりとなり、逃げられなかった。【瓦屋町】
	道路	・あやめ公園（村山公園内）からの道などが狭く、避難車両で渋滞した。課題として位置づけている。【人吉市】
住まい再建	復興まちづくり	・リフォームに750万円位かかると言われた所もある。高齢なので今更借金もできず、熊本市内に住む子供の所へ移った人もいる。【瓦屋町】 ・熊本地震では震度5強だった。【瓦屋町】 ・熊本地震はえびの地震よりも強かった。【井ノ口町】 ・地震と違い、水害の後片付けは消毒などが必要で、大変だ。【瓦屋町】 ・御溝川の周りの中では毎年床下浸水し、水に浸かる所であるとあきらめている人もいる。少ないが熊本市内に移った人もいる。床上浸水をして現地でリフォームしている家もある。
治水	治水 環境共生	・球磨川に架かる橋がダム化してしまう。 ・五十鈴橋がダム状態だった。【鶴田町】 ・御溝川の河床は浅いので、土砂掘削を住民から県に要望している。【井ノ口町】 ・水量に対し河川断面が小さい。【合ノ原町】 ・取水口を閉めても溢れて浸水した。そのため放水路を作っている。水を減らす対策をとって欲しい。【瓦屋町】 ・第2放水路の工事中。【井ノ口町】 ・昔の方が水が出ていたが、田が多かったので今よりましに思う。今は家が増えた。【井ノ口町】 ・鬼木川や山田川は、球磨川のバックウォーターでダム状態になった。26軒が床上浸水し、床下浸水も合わせて30軒ぐらいが被害を受けた。17:30から1時間ぐらいで80mぐらい。車だけ先に避難させた。【鶴田町】 ・30軒ほどが床上浸水した。【瓦屋町】 ・工業高校との間の鷹木川が御溝川に当たって溢れた。 ・昭和19年は山田川の上流が決壊し、全域が浸かった。【鶴田町】 ・御溝川の川幅は2～3mで、毎年溢れる。7月は井ノ口町で御溝川が溢れた。【井ノ口町】 ・もともと水が少ない万江川が堤防を越え、取水口、取水堰から溢れた。 ・浸水リスクが高いのは、温泉町、中神町。 ・いくつもの支流が球磨川に流れ込むので、球磨川の流量を何とかしなければならない。

※第2回校區別座談会における参加者による意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

■避難所・避難場所、災害リスク図



項 目	西校区の主な課題や要望について
土砂災害対策	・シラス台地のため、水よりもがけ崩れが怖い。土砂災害警戒区域に指定されており、10年前から県の対策計画があるが進んでいない。【井ノ口町】 ・JRより北側は川や水路が多いので水が怖い。井ノ口町や駅裏の城本町はがけ崩れが怖い。【井ノ口町】
その他	・橋が渡れなければ西側へ行けないので、消防団は東校区となっている。【鶴田町】

【重点地区（案）への意見】

- ・山田川沿い、御溝川沿いなどは、検討する必要があるかもしれない。
- ・鶴田町の一部は中心市街地と同じまとまりにする方が良い。
- ・事業所も構成員とする必要があるだろう。

※出典：

- ・避難所・避難場所等：人吉市総合防災マップ
- ・土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域：国土数値情報
- ・浸水想定区域（想定最大規模）：
 - 八代河川国道事務所提供資料（球磨川本川）
 - 熊本県提供資料（万江川、胸川）

※上記以外の河川については浸水想定区域が未公表

